

22年04月世界市場レビュー

株式会社LOGOSキャピタルパートナーズ
代表 伊藤 武

LOGOS 4月末世界市場レビュー2022

2022年4月末主要指数（2022年3月末比）

ダウ工業株平均 32,977.21(-4.9%)

S&P 500 指数 4,131.93(-8.8%)

NASDAQ 指数 12,334.64 (-13.3%)

日経平均 26,847.90 (-3.5%)

米ドル対円 ¥129.84 (¥121.78)

ポンド対円 ¥163.26 (¥160.12)

ユーロ対円 ¥136.90 (¥134.85)

金 \$ 1,896.90(-2.3%)

4月15日付のLOGOS Blog # 24「金融政策の舵取りは金融市場市場中心から実体経済へ

転換」とし、インフレ対策には本格的な引締めを必要とする見解を述べました。21世

紀初頭の当時グリーンSPANFRB議長は大幅な株価下落に即時対応する緩和措置を採

りました。それはグリーンSPAN・プットと称され、以降FRBは株式市場の調整局面

に際しFRBプットとして、例外なく株価を支える措置を講じてきました。中央銀行の

使命は景気浮揚とインフレ抑制両輪の役割を担っています。インフレなき環境では無

制限の緩和策が可能でしたが、インフレ抑制には引締め措置が余儀なくされています。

金融市場は明らかにそれを認識し始め、市場は波乱含みに展開しています。主要IT銘

柄を擁するNASDAQ指数は昨年11月に16,000ドル大台の市場最高値を記録し、現時点で

既に23%下落しベアマーケットに突入しています。それに対し主要指数S&P500 指数は年初の4,800ドル近辺から14%の下落を記録。ダウ平均30銘柄は9%の下落を演じています。現在のところ景気は堅調に推移し、来年以降不況に転じるとの見解は少数に留まっています。

現在なお相場リスクは継続して高いと考え、依然として長期金利を含め全面的に金利体系が上昇基調を続ける可能性が高いと観察します。ウクライナ戦争及び中国のコロナに対するロックダウン対策等世界経済に与える影響は判明せず、今後の動向を見守るしかありません。株式のエクスポージャーを低めたまま静観することが賢明と考ええます。ヘッジの役割を果たす金はそれなりの効果は発揮しているものの、史上最高値圏で、且つ利子を生まない資産として、過去に観測された有事の金としての期待は低くなっています。

年初来市場のもう一つ大きな展開は急速な円安です。直近の日銀政策決定会合で緩和維持が確認され円安の目途が立たなくなり、いっそうの円安が懸念要因として持ち上がっています。ドルを中心としたポートフォリオ評価価値は円安の恩恵を受け、辛いドル建て株価の下落を部分的に相殺しています。円安歓迎の見解は悪い円安懸念に転換し、今後は円安の歯止めを模索する展開に移るでしょう。世界の流れは金融引き締めと金利高の方向に転じているのに対し、日本は緩和策継続を余儀なくされているジレンマに陥っています。1,300兆円に迫る国債残高に対し、もし金利が平均1%上昇すれば13兆円の赤字拡大を意味し、財政赤字の観点から金利高は容認しがたく、貿易収支は最早黒字が無くなり、経常収支黒字も国内還元がなく、八方塞がりの様相を呈し

て
います。

本資料は、株式会社LOGOSキャピタルパートナーズ（以下「当社」という）が情報の提供のみを目的として作成したものです。当社が提供する情報は十分信頼に足るものと信じておりますが、それを保証するものではありません。ここに掲げる過去の実績は必ずしも将来の動向を示唆するものでなく、実際の収益を確約するものではありません。記載された見解等の内容は全て作成時点でのものであり、今後予告なく変更されることがあります。この資料及びここに掲載された情報等の権利は当社に帰属します。したがって、当社の書面による同意なくして、その全部若しくは一部を複製し、又その他の方法で配布することはご遠慮ください。